

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
北海道芸術デザイン 専門学校	昭和51年5月1日	杉 澤 投 吉	〒001-0027 札幌市北区北27条西8丁目 (電話) 011-756-0777		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 美専学園	昭和62年12月4日	高 橋 英 雄	〒001-0027 札幌市北区北27条西8丁目 (電話) 011-756-0777		
目 的	学科の目的 環境デザイン学科(クラフトデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・国家資格を中心に各種の資格取得を推進し、社会の発展に寄与する実践的な能力・態度を育てる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し実務的な職業教育を施す。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
文化教養分野 専門課程	環境デザイン学科 (クラフトデザイン専攻)	2年(昼)	2,400単位時間 (又は単位)	平成7年1月23日 文部省告示第7号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	90単位時間 (又は単位)	2310単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人の内数	24人	2人	16人	18人	
学期制度	■前期：4月1日～9月28日 ■後期：9月29日～3月31日		成績評価	■成績表 (有) 無 ■成績評価の基準・方法について 授業担当教員が課題の成果・提出状況・出席状況等を総合的に評価する。	
長期休み	■学年始め：4月9日 ■夏 季：7月28日～8月17日 ■冬 季：12月17日～1月12日 ■前 期 末：9月10日～9月28日 ■学 年 末：3月4日～4月7日		卒業・進級条件	教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年の課程の修了又は卒業を認定する。卒業必要授業数2400単位時間	
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無 ■長期欠席者への指導等の対応 面談及び保護者との連携		課外活動	■課外活動の種類 北海道私立専修学校各種学校連合会札幌支部体育事業の参加、地域清掃等 ■サークル活動 (有) 無	

<p>主な就職先</p>	<p>■<b>主な就職先、業界</b> 家具、木製品製造業ならびに営業・販売業、ジュエリー、アクセサリ製造業、ならびに営業・販売業、金属加工業、陶芸作家・講師、インテリア販売ならびに内装技術業、雑貨小物販売業、ほか</p> <p>■<b>就職率</b> 83.3%</p>	<p>主な資格・検定</p>	<p>CADトレース技能審査、ガス溶接技能講習、Illustratorクリエイター能力認定試験、Photoshopクリエイター能力認定試験、色彩士検定、ビジネ初能力検定</p>
<p>中途退学の現状</p>	<p>■<b>中途退学者</b> 0名    ■<b>中退率</b> 0%</p> <p>平成25年4月1日在学者24名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者24名（平成26年3月卒業生を含む）</p> <p>■<b>中途退学の主な理由</b> 健康及び経済的理由による進路変更</p> <p>■<b>中退防止のための取組</b> 補習の実施と保護者への連絡・連携</p>		
<p>ホームページ</p>	<p>URL: <a href="http://www.bisen-g.ac.jp/">http://www.bisen-g.ac.jp/</a></p>		

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

- ・ 学生の就業先の業界動向に関する最新情報を収集し、現場の実務で求められる専門スキルに対応した授業科目の開設や授業課題の設定、ICT関連機材等の学習環境整備、教材開発等に活用する。
- ・ 企業等委員から経営者としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組む。

### 教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年9月30日現在

名 前	所 属
佐野 公康	株式会社デービス 代表取締役
西村 昌実	北海道イラストレーターズクラブα 会長
井上 俊彦	一般社団法人 札幌・北海道コンテンツ戦略機構 理事長
内藤 卓也	株式会社ジュリアジャパン 取締役社長
野村 光雄	株式会社デザインミック 代表取締役
薄木 健友	株式会社フルーロン花佳 代表取締役
鈴木 理	株式会社鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取締役
中山 眞琴	株式会社ナカヤマ・アーキテクト 代表取締役
杉澤 投吉	北海道芸術デザイン専門学校 学校長
堀口 徳久	北海道芸術デザイン専門学校 副学校長
高橋 美絵	北海道芸術デザイン専門学校 教務部長
飯塚 哉子	北海道芸術デザイン専門学校 学務部長・建築デザイン学科長
山内 芳美	北海道芸術デザイン専門学校 産業デザイン学科長
田中 政史	北海道芸術デザイン専門学校 マルチメディアデザイン学科長
松原 祐子	北海道芸術デザイン専門学校 環境デザイン学科長

### (開催日時)

第1回 平成26年8月27日 16:00～17:30

第2回 平成27年1月21日 16:00～17:30 (予定)

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

- ・ 職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。
- ・ 担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、指導講師と教務部で情報を共有する。
- ・ 学修成果の評価指標・手法についても予め協議し、演習終了後には指導講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

科目名	科目概要	連携企業等
デザイン概論	デザインにおける基礎造形の理解を目指す。立体作品の持つ社会性や置かれる空間との関係を講義で学び、今後の制作活動への審美眼を養う。また制作を通して、素材を使い、イメージを伝達できる力を養う。作品に感性の豊かさや表現の的確さを与えられるよう、空間における造形感覚を磨く。	北海道デザイン協議会
基礎技術演習Ⅱ	演習を通して、自らの研究として釉薬の調合や焼成方法などを調整し、成形から焼成まで制作を行う。屋外型の窯の演習にも取り組む。	(有)円山陶房
専門技術演習Ⅱ	ロストワックス、キャスト技法を用いた加工法によるアクセサリーの制作に取り組む。	BURNING JOHN
専門技術演習Ⅰ	企画を立案し、コンセプトメイキングからプランニング、表現手法までトータルの習得を目指す。実社会での制作側の立場理解も目指す。	Atelier Monogoto 一級建築事務所
基礎技術演習Ⅱ	地金から成形する、彫金技法の基礎技能を、課題演習を通して学生に指導する。展示会に出品して、学外の評価も得る。	(有)秀工房

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。

- ・ 教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。
- ・ 各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。
- ・ 授業および学生に対する指導力向上のため、各種職能団体が運営する指導員研修への参加や、所定の年度に大学等で実施される教員免許更新講習等を受講する機会を確保する。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年9月30日現在

名前	所属
河村和義	株式会社アトリエK一級建築士事務所 代表取締役
櫻井俊二	北海道芸術デザイン専門学校校友会会長
安田昭夫	北海道芸術デザイン専門学校元学校長・北海道札幌白石高等学校元校長
山森鉄夫	司法書士 山森鉄夫司法書士事務所 所長
杉澤投吉	北海道芸術デザイン専門学校 学校長
西尾正道	北海道医薬専門学校 学校長
館山昭	北海道医薬専門学校 副学校長
堀口徳久	北海道芸術デザイン専門学校 副学校長

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp/>

## 5. 情報提供

(情報提供の方法)

○ホームページ <http://www.bisen-g.ac.jp/>

○SNS (Facebook) <https://www.facebook.com/bisengakuen>

○北海道私立専修学校各種学校連合会の発行する「北海道専修学校概要」等の進学情報への掲載

授業科目等の概要

文化教養分野専門課程 環境デザイン学科(クラフトデザイン専攻) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			一般教養（一般教養知識 クラフトデザイン概論）	社会人としての一般教養、常識、礼儀を学ぶ。またクラフトデザインの業種や、技法の歴史を学ぶ。	1 前	30	1	○		
○			英会話	初歩的な英語の運用能力を養う。	1 前	30	1	○		
○			デザイン概論（基礎造形）	造形デザインにおける基礎構成の理解を目指す。多様な素材を使いイメージを伝達できる力を養う。	1 前	30	1	○	△	
○			色彩学（平面構成・立体構成・色彩）	クラフトデザインにおける配色計画、対比、調和といった色彩の基本性質とともに、造形の構成も学ぶ。色彩士 3 級を目指す。	1 前	30	1		○	
○			美術史（基礎造形）	美術・彫刻の歴史から、立体造形の基礎理論を学び、演習課題を通して空間における造形感覚を磨く。	1 前	30	1	△	○	
○			デッサン	形態の把握、観察力を身につける。	1 前	30	1		○	
○			基礎技術演習Ⅰ（木工基礎実技）	木材の基本的性質を理解し、工具用途の理解と応用、使用法を学ぶ。手や機械による加工技術を取得。	1 前	60	2		○	△
○			基礎技術演習Ⅰ（陶芸基礎実技）	土の加工に始まり、釉薬絵付け等の技術から焼き物の完成まで一連の行程を課題制作を通じて演習する。	1 前	60	2		○	△
○			基礎技術演習Ⅰ（金工基礎実技）	金属の特徴を知り、工具を理解する。材料認識を基に機能性かつ、造形美を兼ね備えた制作を目指す。	1 前	60	2		○	△
○			基礎技術演習Ⅰ（鑄造基礎実技）	鑄造原理の理解とその技術の習得。造形性、デザイン性を意識したシルバーアクセサリーの制作を行う。	1 前	60	2		○	△

○		基礎技術演習Ⅱ（木工演習Ⅰ）	多様な素材の知識、基本的な加工技術を基に演習を通してオリジナル家具の制作を行う。	1 後	30	1		○	
○		基礎技術演習Ⅱ（陶芸演習Ⅰ）	演習を通して、基本的な釉薬の調合や焼成方法などを調整し、成形から焼成まで制作を行う。屋外型の窯の演習にも取り組む。	1 後	30	1		○	
○		基礎技術演習Ⅱ（金工演習Ⅰ）	基本演習として、銅素材の加工から、金属の特性を知り、切断、溶接の技術を学ぶ。	1 後	30	1		○	
○		基礎技術演習Ⅱ（鋳造演習Ⅰ）	ロストワックス、キャスト技法を用いた加工法によるアクセサリーの課題制作に取り組む演習。	1 前	30	1		○	
○		基礎技術演習Ⅱ（デザイン製図）	JISに基づく製図法を用いて三面図の作図と各種透視図法を学び、課題制作による具現化によりフィードバックしながら図面の描画技術を習得する。CADソフトの基礎演習。	1 前	60	2		○	
○		基礎技術演習Ⅱ（ジュエリーデザイン画テクニック）	宝石や貴金属に欠かせない、シェーディングやハイライト技法を描画演習にて学ぶ。	1 前	60	2		○	
○		専門技術演習Ⅰ（金属加工基礎）	機械加工の演習。切断、研磨、穴あけや溝切り、ネジ制作など、課題制作を通して学ぶ。	1 前	60	2		○	
○		専門技術演習Ⅰ）プランニング	企画を立案し、テーマ、コンセプト設計からプランニング、表現手法までトータルの習得を目指す。また雑貨デザイン、商品デザインについて学ぶ。	1 前	60	2	△	○	
○		専門技術演習Ⅱ（木工演習Ⅱ）	多様な素材の知識、基本的な加工技術を基に演習を通してオリジナル家具の制作を行う。	1 後	30	1		○	
○		専門技術演習Ⅱ（陶芸演習Ⅱ）	演習課題制作を通して、釉薬の調合や焼成方法などを調整し、成形から焼成まで学ぶ。	1 後	30	1		○	△
○		専門技術演習Ⅱ（金工演習Ⅱ）	基本演習として、銅素材の加工から、金属の特性を知り、切断、溶接の技術を学ぶ。	1 後	30	1		○	
○	○	専門技術演習Ⅱ（鋳造演習Ⅱ・プレゼンテーション）	鋳造演習Ⅱ、プレゼンテーションから選択。鋳造では地金から成形する、彫金技法の基礎を演習を通して学ぶ。プレゼンテーションでは提案力の強化を目的にパソコンでグラフィックソフトを使い、文章のビジュアル表現を高める。	1 後	30	1		○	

○		DTP 演習(DTP 基礎演習)	グラフィックソフト・CADソフトを用いて制作意図を確実に、効果的に伝えるテクニックを学習する。ビジュアル表現も含めプレゼンテーションの総合的なセンスを磨く。	1 後	30	1		○	
○		前期課題制作	講義や演習を通して学んだ発想・技法を生かし、前期のまとめとして課題制作する。	1 前	30	1		○	
○		後期課題制作	講義や演習を通して学んだ発想・技法を生かし、後期のまとめとして課題制作する。	1 後	30	1		○	
○		コンペ課題(表現基礎)	コンペ課題を通して完成作品を積極的に応募することで実践力を高める。	1 後	30	1		○	
○		進級制作	1年間の総まとめとしてその成果を問うべく、各自が専攻色を生かしたテーマを定め長時間をかけて制作する。	1 後	180	6		○	
	○	各種概論(木工・陶芸・金工・鋳造、演習Ⅲ)	木工演習Ⅲ・陶芸演習Ⅲ・金工演習Ⅲ・鋳造演習Ⅲから選択。各種工芸分野における、技術向上のために様々な技法を学び、オリジナルデザインのセンスを磨く。また展示会への参加や公募展に作品を出品し、学外の評価を得る。	2 前	30	1	△	○	
	○	色彩応用(造形演習Ⅰ)	多様な素材の知識、基本的な加工技術を基に演習を通してオリジナル作品を制作する。	2 前	30	1	△	○	
	○	各種技術論(木工・陶芸・金工・鋳造、演習Ⅲ)	木工演習Ⅲ・陶芸演習Ⅲ・金工演習Ⅲ・鋳造演習Ⅲから選択各種工芸分野における、技術向上のために様々な技法を学び、オリジナルデザインのセンスを磨く。	2 前	60	2	△	○	
○		表現技法演習(空間表現)	基礎構成の応用として、多様な素材を使いイメージを伝達できる力をさらに高める。	2 前	60	2		○	
	○	材料学(素材研究Ⅰ)	木材、金属、土材など、成形と技法を用いた加工を演習課題に取り組みながら可能性を探る。	2 前	30	1		○	△
○		プレゼンテーション	図面、完成予想図をパソコンを用いて描画表現。オリジナル作品への資料制作。また就職に向けてのポートフォリオ制作。	2 前	30	1		○	
○		プレゼンテーション(CAD演習)	三面図の作図から3Dモデルまで、CADソフトによる家具デザイン、システム理論及び操作法を学ぶ。	2 前	30	1		○	



○		プレゼンテーション(造形演習Ⅰ)	多様な素材の知識、基本的な加工技術を基に演習を通してオリジナル作品を制作する。図面、完成予想図をパソコンを用いて描画表現。オリジナル作品への資料制作。	2前	30	1		○	
○		プレゼンテーション(素材研究Ⅰ)	図面、完成予想図をパソコンを用いて描画表現。オリジナル作品への資料制作。また就職に向けてのポートフォリオ制作。	2前	30	1		○	
○		デザイン演習(造形演習Ⅱ)	課題を基に技術を応用した制作演習。構成や造形美を深く知る。	2前	60	2		○	
○		デザイン演習(素材研究Ⅱ)	成形と技法を用いた加工を演習課題に取り組みながら更に、今後の制作活動の資料となるような取り組みを目指す。	2前	60	2		○	
○		応用技術演習Ⅰ(木工・陶芸・金工・鋳造、演習Ⅳ・Ⅴ)	木工演習Ⅳ、Ⅴ・陶芸演習Ⅳ、Ⅴ・金工演習Ⅳ、Ⅴ・鋳造演習Ⅳ、Ⅴから選択。課題制作では基本的な制作方法などを自ら決定。プランから完成まで制作演習を通してデザイン力、加工技術を深める。	2前	120	4		○	
○		応用技術演習Ⅱ(木工・陶芸・金工・鋳造、演習Ⅵ・Ⅶ)	木工演習Ⅵ、Ⅶ・陶芸演習Ⅵ、Ⅶ・金工演習Ⅵ、Ⅶ・鋳造演習Ⅵ、Ⅶから選択。課題制作では基本的な制作方法などを自ら決定。プランから完成まで制作演習を通してデザイン力、加工技術を深める。	2前	120	4		○	
○		前期課題制作	講義や演習を通して学んだ発想・技法を生かし、前期のまとめとして課題制作する。	2前	30	1		○	
○		コンペ課題制作(造形演習Ⅰ)	多様な素材の知識、基本的な加工技術を基に演習を通してオリジナル作品を制作する。図面、完成予想図をパソコンを用いて描画表現。オリジナル作品を完成し応募する。	2前	30	1		○	
○		卒業制作	在学中に学んだ専門知識技術などの専攻色を十分に生かして、自らのテーマを設定し、数週間の長期制作に没頭する。まさに各自のメモリアルワークとなる。	2後	450	15		○	
合計				27	科目		2400 単位時間( 80 単位)		